

# 西多摩医師会報

1987年6月1日

174号

発行所・社団法人 西多摩医師会 東京都青梅市西分3-103  
編集委員・石井 好明 井村 進一 TEL.(0428)23-2171(代)  
栗原 琢磨 小林 杏一  
道又 正達 村山 正昭 渡辺 良友

## 理事会報告

### 4月定例理事会

昭和62年4月21日(火) PM7:30

西多摩医師会館

議事録署名人 { 東 吉男  
川辺隆道

### 1 報告事項

1) 三多摩地区医師会庶務担当理事連絡会報告

① 各地区医師会新年度新規事業予定について

主な変更なく、例年通りとの旨の説明あり。

② 会員死亡の際の弔慰金について

現時点では各地区さまさまの様相を呈している旨の説明

③ 医師会葬該当者の条件について

理事会の議決によるとの旨の説明あり

2) 各部報告

経 理 部…4月28日部会、5月1日監査会の予定

学校医部…本年度は大阪にて全国学校医会開催予定

福 祉 部…会員親睦懇親会を7月に予定している旨の説明

内容は福祉部に一任

学 術 部…講演会に出席して欲しい旨の説明

出席者4月10日、16名、

4月16日は24名であった。

◎生涯教育委員会発足…委員名は以下に決定承認

理事 塩沢永康、東吉男、林 実  
栗原琢磨(南部ブロック兼任)

東 部 渡辺良友

西 部 野本正嗣

南 部 栗原琢磨

病院 坂本保己、平沼 俊、大久保憲二

3) その他

○入退会会員について — 承認 —

○福生準看護学院、都立青梅看護学校の入学者及び卒業者の現状についての説明あり。両校とも入学倍率高くなってきている。

### 2 協議事項

1) 中村武会員よりの「理事会への提言」について

提言に対し、各理事の意見が出され、検討した結果、中村先生の会員の意見を反映する理事会であって欲しい旨の内容を尊重、今後より一層努力していく事で協議終了となった。

結 議 ○各地区での意見及び提言があった場合は、議題として、協議事項その他の項で検討する事とする。

○今後個人的提言等は、所属の自治体医師会又は、ブロックに語ってからとする。

## — 承認 —

## 2) その他

学術講演会、日時、講演内容変更について

11月10日 一般医に必要な精神医療について

11月18日 眼圧の見方(Ⅰ)

理事会協議事項外として

○西多摩医師政治連盟について

今後公認の政治団体としていくか等含め各ブロックより2名ずつの委員を設け、内容の検討をしていただく事となる。

## 5月定例理事会

昭和62年5月8日(金)PM7:30

議事録署名人 { 林 実  
栗原琢磨

## 1 報告事項

1) 都医地区医師会長協議会、三多摩ブロック地区医師会長協議会報告

① 第187回代議員会について  
各理事及び監事(東京都医師会役員)決定した旨の説明

② つつが虫病患者発生について  
4月23日秋川市で届出有り。都内での発生としては2人目である。

③ HIV感染者情報及びエイズサーベイランス委員会検討結果について

HIV感染者187名、エイズ患者38名となる。

④ 東京都消防庁災害救急情報センター常駐医制度について

昭和62年5月1日開始

## 2) その他

○三多摩地区医師会懇親会開催日変更について

昭和62年12月5日(土)午後6時より京王プラザホテル4階 錦の間

○入退会会員について — 承認 —

## 2 協議事項

1) 昭和61年度決算報告について承認を求める件

川辺理事により昭和61年度収支計算書等に基づき決算報告あり。監査においても問題なしとの説明あり

## — 承認 —

2) 各地区医師会(ブロック)からの提言  
南部ブロックより、医師会主催の旅行の提案あり、検討する事となる。

## 3) その他

○西多摩医師会互助会について  
会計収支統計において、最近支出額が、収入に比べ増加傾向にある為、今後検討を要すのではないかとの意見あり。

## 羽村町平日夜間急患センター発足す

5月1日開設された夜間急患センターは、福島羽村医師会長が初日を担当され順調なすべり出しをみせている。

2月号に報告された通り、診療体制は羽村医師会員と町内外に居住する有志会員、福生病院(火)、杏林大学(土)により構成され診療時間は午後7時より午後11時である。

スタッフは医師、看護婦、事務員各一名で診察室の椅子にすわった担当医の感想は極めて仕事のしやすい配置になっているとのこと。

医療の範囲は受けつけ、振り分け、投薬は1日分を原則としており、レントゲン装置は

おかず、その代りに自動血球計算器、小型超音波装置、2チャンネル心電計を装備し機動性を発揮しようと考えている。

患者の動向は土旺日に多く、開業医が休診する水・木旺日に多いかと予想されたが、その傾向は認められない。風疹の流行もかさなって5月2日15名と最も多く、3名と少ない日もあるが平均して7~8名である。

受診状況を見ると感冒をはじめ軽症例が殆んどであるが、吐血、急性腹症など2次収容を要するものも来院している。5月11日には指環の第4指嵌頓が2名も受診し救急車で

切断器を搬送、処置にあたった。

10時をすぎれば問い合わせの電話もないので、のんびりお茶をいただいて11時5分に退出しようとする、子供の手を引いて母親が

とび込んできたりして、いつもの休日準夜診療と同じような光景はいかんともしがたい。

文責 村山 正昭

**学術講演会**

「湿疹・皮膚炎及び見誤り易い皮膚疾患」

日時 S 62. 6. 17 PM 7:30

濱松皮膚科 濱松 輝美

いわゆる湿疹・皮膚炎は外因性、内因性を問わず、各種の刺激に対する皮膚の炎症性反応のうち最も頻度の高い表現であり、皮膚疾患全体の30～50%を占めるとされている。これが第一線の開業医にあっては更に頻度が高く50～70%を占めるもので、掻痒感が強く、日常生活で耐えられない苦痛と不快感を主訴として医治を求めるため、皮膚科を専門とすると否とに係らず湿疹・皮膚炎を診療する機会は極めて多い。

一方副腎皮質ホルモン含有外用剤の登場と共に、その強い抗炎症作用によって、一次的に軽快をみるが故に、湿疹・皮膚炎に関する

正確な情報もなしに安易にこの対症療法をつづけ、思わぬ副作用のため、患者からの強い不信任感を招く傾向が認められるようになった。今回は副腎皮質ホルモン含有外用剤の副作用はさておき、湿疹・皮膚炎を正確に診断するために、この頻度の高い湿疹・皮膚炎が現在どの様に考えられ、分類されているかを出来る限り多くの臨床スライドを供覧し、説明した上で日常の診療の一助とするために、しばしば湿疹・皮膚炎と誤診しやすく、時には不幸な転帰をとることのある疾患について、私の経験した症例を中心にスライド供覧し、それらの疾患について簡単に解説をしたい。

脳血栓症と抗血小板療法

脳卒中の死因に占める割合は減少傾向をみる、その中で脳梗塞症は増加を示している。脳梗塞症発症の原因は単一ではないが、血小板の機能異常が果す役割も見逃すことは出来ない。従ってその機能異常(亢進)を是正することは脳梗塞発症の予防あるいは再発防止につながり、日常診療において重要な課題の一つといえる。そこで、この血小板の血栓形成に果す役割と抗血小板療法について、教室での成績を中心にし乍ら解説を試み度い。

杏林大学医学部高齢医学教室  
助教授 佐藤 喜彦

日時 S 62. 6. 9 P.M. 7:30  
演題 脳梗塞の抗血小板療法

お知らせ		
正 午 迄	七月 八日 (水)	七月 の 保 険 提 出 日

文 芸

斯く慮ひ  
 歌の情緒は  
 荒廃果つるなり  
 思うとき  
 行革の  
 小さな政府  
 無駄省にあり  
 眞の狙ひは  
 精鋭の  
 憲法の異常  
 九条 将来  
 厳然たるべし  
 国際の異常  
 将来 続かんも  
 通貨異変  
 政界の不安  
 底なしつづく  
 依然と続き  
 企業難  
 エイズ問題  
 世紀の課題  
 漸くにして  
 人権に及びて  
 世論湧き  
 筒は  
 飽食の時代  
 顧り見るなし  
 伸び放題  
 伸び放題  
 驚も  
 老いて頻りに  
 藪に啼く  
 来鳴かず  
 筒鳥 郭公 未まだ  
 風薫り 若葉の萌えて 茶の香り  
 賞味楽しむ 春日深まる  
 「五月空に思う」 小泉新策

診療報酬明細書返戻状況

2月分

返 戻 理 由		医科(乙表)件数			
		青 梅	福 生	秋 川	西多摩
1	保険者番号、記号○番号、公費負担者番号、市町村番号、受給者番号の不備又は保険者番号と記号の不一致	19	13	7	16
2	旧証の記号○番号	8	1	4	6
3	患者名、生年又は生年月のもれ	4		1	2
4	傷病名のもれ				
5	診療月分、診療開始日、診療実日数、転帰のもれ	2	1		1
6	診察料(初診、再診、往診又は時間外等の表示)のもれ			2	3
7	診療月と診療開始日及び初診料の不一致	12		1	5
8	診療実日数と診察回数又は処方回数の不一致	6	4	6	2
9	投薬○注射(薬名、規格単位、用量、回数)の不備	5	2		7
10	処置○手術○検査○X線(薬名、回数、内訳)の不備	4		1	1
11	入院料の不備		1		
12	点数欄記入もれ又は点数算出根拠不明	2			5
13	契約外(国保、国鉄、公費等)		1	1	1
14	症状詳記(診療内容及び方針の説明等付せん参照)		1		
15	医療機関(薬局)の申し出によるもの	5			1
16	その他	2		1	5
	計	69	24	24	55

## あ と が き

今月号は、内容が少し寂しいものになってしまいました。論文形式に拘らず、文芸、随筆、趣味といったコーナーが、もっと賑やかであってもよいのではないかと思います。

会員の方々が楽しく読んで下さる会報であれば、より良い医師会にする為の提言にも通じるのではないのでしょうか。

原稿ではないとおっしゃる筆者の御希望もあり、掲載致しませんでした。が、会報委員宛に、昨年発生したチェルノブイリ事故の報道及び論文を読んで、「チェルノブイリの汚染食糧」なる題のお手紙を戴きました。ある国では、放射能汚染された食糧が輸出、入され

ている可能性のある事、又この食糧が与える人体への影響が多大である事、同様の事故が身近でも起り得るといった、危険と隣り合せといった主旨の内容でした。又筆者は、医師として、国民として考えてみる時期に来ていと結んでおられました。

本当に恵まれた(恵まれ過ぎている)生活を送っている我々が、真の健康とは、又幸福な生活とは何かを、もう一度考えてみなければという問いかけが感じられ大変、有意義な意味深いお手紙でした。

(小林 記)

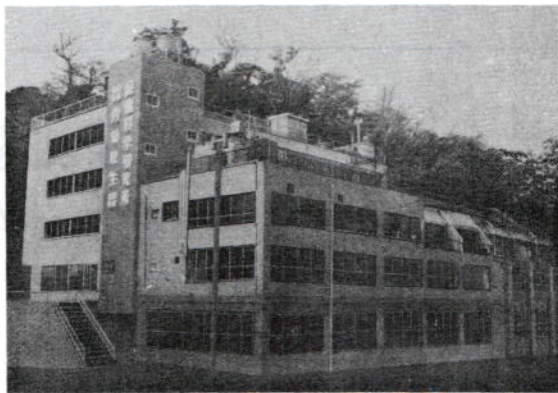
## 臨床検査センターの雄 保健科学研究所

横浜市保土ヶ谷区神戸町106

電話 045 (333) 1661 (大代表)

八王子市子安町3-17

電話 0426 (26) 2203・2204



- 総合臨床検査センターとして20余年間地域医療に貢献し、絶大な信頼を頂いています。
- 完全オンラインシステム化を実現致しました。(データー通信システム)
- 関係医療機関 約 3,500ヶ所
- 広範囲な検査内容
  - 内分泌学検査 ● 免疫学検査 ● ウイルス検査 ● 生化学検査 ● 血清学検査 ● 血液学検査
  - 病理組織検査 ● 細胞診検査 ● 重金属検査 ● 水質検査

「都」県の御得意先を毎日定期的に集配致します。御一報を御待ち致します。

# ハイテクノロジー検査領域へ!

本社総合ラボは、日々進展変化する臨床検査システムに対応すべく、関東医学研究所の総力を投入し、最先端検査機器を駆使した正確な情報の抽出を目指しています。検体のお預りからデータのご報告まで、確実に迅速にお応えします。

**事業内容** 一般検査、血液学的検査、血清学的検査、臨床化学検査、微生物学的検査、ラジオ・アイソトープ検査、病理学的検査、集団検診などの臨床検査



くらしの知恵と情報を

ホームバンクの埼玉銀行



## 埼玉銀行

青梅支店 (TEL 0428-22-1101)  
東青梅支店 (TEL 0428-22-2121)  
青梅支店  
奥多摩特別出張所 (TEL 0428-83-2515)

福生支店 (TEL 0425-51-1021)  
村山支店 (TEL 0425-61-1211)  
五日市支店 (TEL 0425-95-1311)  
河辺支店 (TEL 0428-24-2401)  
秋川支店 (TEL 0425-58-2611)